

## ベストクラス選定理由書

作成者：須田康之 藤原真琴 一安幸実 佐藤希洗 竹中穂花 樋口萌 糸田菜々子

科目名称 特別支援教育リーダーのために創発的コミュニケーション（昼間クラス） （担当教員名：宇野宏幸、岡村章司、石橋由紀子）	
課程：学部・ <u>大学院</u> （ <u>修士</u> ・専門職）	開講時期：前期
授業形態：講義・演習	授業規模：30人以下
インタビュー対象教員名 宇野宏幸、岡村章司、石橋由紀子 （実施日時：令和5年7月28日 実施場所：302個別指導支援室）	
インタビュー対象受講者名 吉川 真紀 （実施日時：令和5年7月28日； 実施場所：院生室）	
<選定理由> <p>「知的刺激のある授業で積極的に参加できた。3人の先生方が連携し系統的なカリキュラムが組み立てられておりゴールが明確であった。」等の受講生のコメントより本科目をベストクラスとして選定した。</p> <受講生のインタビューより> <p>初めの石橋先生がキーポイントで、「何を言っても大丈夫,何をしても許される」という心理的安定を与えてくれ,この授業の土台となる部分を作ってくれた。次に宇野先生の授業では,コンセプトがはっきりと示され,知識だけではないデザイン思考による対話力の向上により,達成感や自己効力感が生まれた。観察し共有することの大切さを学ぶことができた。岡村先生の授業では,グループで1つのものを作り上げることやコンサルテーションで真のニーズをどうつかむか等を考えることができた。口は出さないが見守ってくれ,困ったときは適切なフォローをしてくれた。「きついけどやってみようと思えた」と充実した授業内容であったことがうかがえた。</p> <担当教員へのインタビューより> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現職教員のみ,ミドルリーダー向けの授業になっており,人と人をつなぐコミュニケーションの土壌を耕す,その中でも「対話」を重視し,「対話するリーダーの育成」を目指している。授業は10年間3人のオムニバス形式で行われており,それぞれの役割分担がすでに定着している印象を受けた。</li> <li>・「対話」を重視し,違った考えや違った立場の人が寄り集まって上手くコミュニケーションをとることで化学反応がおき,新しい気づきや新しい発見につながるという宇野先生の考えを教員間で共有できている。</li> <li>・石橋先生は対話による学びの環境づくりを意識した細かい仕掛け,宇野先生は互いを批判するのではなく批評しあう建設的に完成度をあげていく仕掛け,岡村先生は受講生が自分たちの指南書を作るようなアウトプットの仕掛けを挙げ,授業では3名の先生方ともに「これが正解」というものを提示しておらず,受講生への課題という形にし,現場で応用できるように仕掛けが工夫されていた。</li> <li>・学びの環境づくりについて,先生方からもう少しワークショップをしやすい環境（ホワイトボード,曲線デザインの机,カーペットなど）を整えてほしいという要望があり,学生が主体的に学ぶ環境についても配慮されていた。</li> </ul> 以上より本授業をベストクラスとして推薦する。	